



講師として

ある新聞のコラム欄にこんな記事が載っていました。

この頃、花や果物は四季を忘れたようにいつでも店頭を飾っているが、その花や果物は品種改良技術や栽培法の進歩によって色つや形の素晴らしいものができるようになった。しかし、大事な「香り」が失われているという。農業試験場ではその香りを取り戻すために原種とかけ合わせる研究をしているという。これを「先祖戻り」としているそうである。

これはいまの子ども達が学力という鋳型にはめこまれて個性が失われていることへの諷刺の文脈でした。今日、飢えて死ぬことも、凍えて死ぬこともない繁栄の社会の中で、子ども達に対するオンパレードの大人社会への警告ともいえます。私たちにとって最も大切な「こころ」が失われているのではないのでしょうか。人の「こころ」は、人間の魂にゆさぶりをかける昔のよき生活への郷愁といったようなものではなく、創造的な「感性」によってお互いに共鳴や感動しあうものではないのでしょうか。

それこそがまさにNPOを拠点とした活動が織りなすもので、「人と人とのふれあい(絆)の美しさ」、「人をおもいやる美しさ」、「隣人とたすけあって共に生きることの美しさ」を「核心」とした活動に他なりません。私はこのような核心にふれた活動から、「いつまでもここで暮らしていきたい」「ここに住んでいてよかった」と思える活動に全力で取りくんでおられる「さわやか愛知」の皆様心から敬意を表します。

もとより、ささやかな未熟な頼りのもので、独善も多く、舌足らずで、どれだけ皆様から共感が得られているのか自己反省をおくっている毎日ですが、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」の言葉に賭けてこれからも「さわやか愛知」の一員として頑張っていきたいと考えています。

これからも忌憚のないご意見やご教示をいただければ望外のしあわせです。

さわやか愛知感謝祭の開催おめでとうございます。

稲垣 福夫

ありがとうございました



ホームヘルパー第1期生

「みんなでがんばって学びました」



修了式(平成12年4月撮影)



福祉用具の体験学習

「この福祉用具は、どんな人・場面で役に立つのかな?」

なかもづくりでスタートした養成講座。すでに3500人以上の方々が修了されました。

「みんな真剣、充実した講義」

講義



介護技術の研修



「ココをこうすると…ポイントを押さえて現場に役立つ学習」